

2月テキスト



聖書は「**ただイエス・キリスト**」についての話です。ただイエス・キリストだけを明らかに私たちに示すのが聖書です。旧約時代の人物は、「ただイエス・キリストだけ」を説明するための模型です。ですから、この月のテキストに出て来るサムエル、ダビデ、エリヤ、エリシャも、みんな「ただイエス・キリストだけ」を説明するために遣わされた人々です。神様が時代ごとにどのような人物を選んで、どうやって遣わされたのかを見ましょう。

1課 ペリシテをあらかじめ征服したサムエル

「和解の務め」

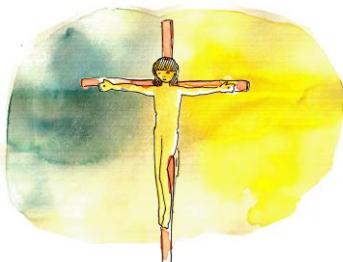
サムエルは、たしかにすばらしい人ですが、「ただイエス・キリストだけ」を説明するために遣わされた人物です。

I サムエル 7:5

それで、サムエルは言った。「イスラエル人をみな、ミツパに集めなさい。私はあなたがたのために主に祈りましょう。」

サムエルがイスラエルの民をミツパに集めて、「私は主に祈りましょう」と言って、「すべての偶像を捨てて、ただ主だけに仕えよう」と言いました。サムエルの役割は、イスラエルの民のために「主に祈る」役割でした。これがイエス様がなさった役割を説明するための「模型」です。

イザヤ 53章は、イエス様の十字架のことについて書いてあります。その中の12節を見ます。この箇所の「彼」は、イエス様のことです。



イザヤ 53:12

それゆえ、わたしは、多くの人々を彼に分け与え、彼は強者たちを分捕り物としてわかちとる。彼が自分のいのちを死に明け渡し、そむいた人たちとともに数えられたからである。彼は多くの人の罪を負い、そむいた人たちのために**とりなし**をする。

イエス様が多くの人の罪を負って、とりなしをすると預言されています。その預言の成就是、新約聖書の

福音書に出てきます。ヨハネ17章で、イエス様は十字架につけられる前に神様に祈りをささげました。「わたしに与えてくださった人々を、悪い者から守ってください」と、とりなしの祈りをされます。そして、十字架につけられたときに言われます。

ルカ23:34

そのとき、イエスはこう言わされた。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」

殺そうとして十字架にかけた人々のためにとりなしの祈りをされました。これが、イザヤ書で預言されたとおりの「イエス様のとりなしの役割」です。

これが「和解の務め」です

神様と人間の間に、和解の務めをしてくださることによって、私たちが神様に会うことができるように、すべての罪を赦し、義人としてくださるということです。イエス様が神様と私の間で「和解の務め」をしてくださって、私たちが神の子どもになるように道を開いてくださいました。そのあと、そのようにして救われた私たちを、「神様」と「神様を知らず、信じていない人々」の間に置いて、「和解の務め」をするように「和解のことば」をゆだねられたのです。



IIコリント5:18-19

これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。

サムエルが、イエス・キリストの模型として、和解の務めをする役割をしました。そして、イエス様が来られた後、イエス・キリストを信じる私たちにも、その和解の務めの役割を与えてくださったのです。

サムエルがすばらしかったので、イスラエルの民をミツバに集めて、すばらしいことをしたのではありません。ただ神様と民の間に立って、民のために祈ったのです。そして、すべての偶像を捨てて神様に仕えるようにと言う役割をしました。それが、いまの時代には、私たちに与えられている役割です。ですから、私たちは、サムエルよりも優れた働き人として、神様が遣わされています。それを信じて、自分にある役割を心に留めましょう。

